



SANO Tech100

第7号

大阪府立佐野工科高等学校 広報委員会（発行責任者 教頭 妻木靖朗）

〒598-0012 泉佐野市高松東1丁目3番50号 <http://www.osaka-c.ed.jp/sano-t/>

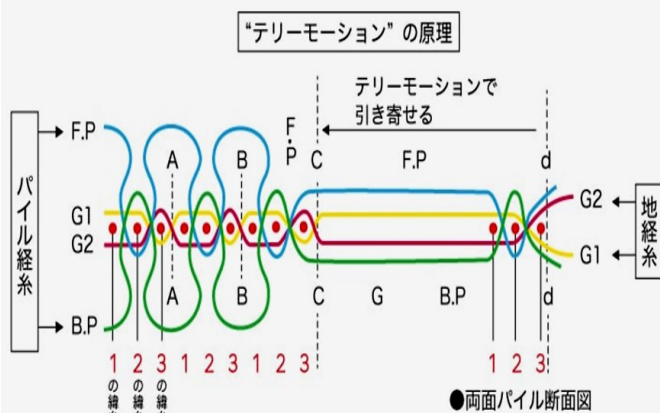
TEL 072-462-2772（2026年5月7日 発行）

日本タオルのふるさと 泉佐野

泉州タオルの起源は明治18(1885)年、大阪で舶来雑貨商を営む新井末吉がドイツ製タオルを入手し、日本でも大いに需要が見込めるとして、泉佐野市の白木綿業者、里井圓治郎にその製織の研究を奨めたことにはじまります。（大阪タオル工業組合ウェブサイトより）

日本タオル製造の起源

▼江戸時代、泉州地域、和泉丘陵は水はけがよすぎてコメが作りにくい地域でした。そこで河内と同じく綿花栽培が活発になります。明治時代になり、エジプトやインドの安い輸入品に押され、綿花の栽培は廃れましたが、木綿の製造技術と製造工場は残りました。泉佐野の里井圓治郎さんは、ドイツ製のタオルを見て、これを製造しようと決意しました。



▼明治13（1880）年、大阪の井上コマさんが、竹ひごを挟んで布を織り、その後、竹ひごを引き抜く、「竹織」を開発します。

▼里井さんは、その製織法の研究に没頭し、苦心の末、明治20（1887）年に箴「おさ」のテリーモーションを利用して輪奈（パイル）をつくる「打出機」を考案、タオル製織に成功、その製品をカルキで晒し

あとざらし

たことから我が国初の後晒タオルが誕生しました。これを機に大阪：「泉州タオル」は日本タオル産業発祥の地として発展し続けています。

テリーモーションとは？

▼テリーモーションの原理についてですが、とても分かりやすい言葉で説明すると、「一つだけ弛(たる)ませておいた糸を、他の糸と合わせてギュッと寄せることでループを作る」というものです。

佐野工科にしかないタオル織機



▼テリーモーションの編み方については、言葉で説明しても、なかなか分かりづらいのでもし興味があれば、日本タオル卸商連合会ホームページなどをご覧ください。

▼この写真は佐野工科高校産業創造系に設置されているタオル織機です。この

写真には写っていませんが、左側にコンピュータがあり、このコンピュータ（CAD）でデザインした模様（地模様）でタオルを織ることができる機械です。この機械が設置されているのは、大阪府内の学校で本校だけです。興味のある方は、オープンスクール等に見に来てください。

<https://www.osaka-c.ed.jp/sano-t/zen/sano100l.html>

SANO Tech100のQRコード

